

# 日本舞踊「振り帳」のIT援用記述と 狂言「小舞」への適応に関する研究

A study on an Application of “Japanese Dance IT *Furicho*” to *Komai* of *Kyogen*

CS22 新保 瑛規 CS36 廣中 亜弓  
指導教員 小出 由起夫 市村 洋

## 1. はじめに

狂言<sup>[1][2]</sup>は、舞も語りも口伝のみで、記録方式を伝統的にとらない最も歴史のある日本伝統芸能の1つである。狂言より歴史は浅いが、日本伝統芸能には日本舞踊もあり<sup>[3]</sup>、稽古には口伝のみではなく記録を取る流派も存在する。その多くでは、稽古内容を「振り帳」という紙媒体で記録する方式がとられている<sup>[4]</sup>。

振り帳は、習い手(弟子)の稽古の記憶補助としてのみ使われる。これは稽古時の記憶を基に描くので、非常に手間と時間がかかるとされている。

本研究では、振り帳の記述をIT化し、習い手の負担を軽減させることを目的としている。さらに、振り帳の機能を狂言の「基本所作(動き)の小舞」に適応させ、その有効性を検証する。

## 2. システム設計の方針

振り帳は「振り」および「歌詞」から構成されている。これをIT化する際に、次の設計方針を設定した。

- ・記述時間の大幅な短縮
- ・操作性の簡易化と表示画面の見易さ

## 3. システム概要

以下の機能が、作成するシステムの要点である。

### ● 描画方式

振り帳は、一列に4~6個の振りを記述することが多い。そのため、1列に記述できる数は可変であることが望ましい。本システムでは1列に5個として設計する。編集は各振り単位で行う。

### ● 歌詞の記述

歌詞の編集はテキストボックスで行う。振りの部分と語り部分の1列をセットとして、1列ずつレビュー画面で確認する。

### ● 振りの描画

日本舞踊における振りの型はある程度パターン化できるという見解より、基本的な部分の描画は頭部・上半身(腕)・下半身(足)といった大まかなパーツごとにデータベースを作り、一覧から選択する方式を採用する。

データベースにはない任意の曲線やメモなどは、ペンツールで描画できるようにする。

## 4. 評価方法

各機能の実装後(図1)、振り帳を用いて稽古されている日本舞踊門弟に実際にツールを使用いただき、ツールに対する意見交換や評価を行う。

## 5. 結果

振り帳作成ツールを叶流日本舞踊門弟である2名に使用していただいた所、表1の結果が得られた。すべての評価結果において、振り帳作成ツールを使うことにより、手書きよりも描画時間を短縮できることが実証できた。

## 6. おわりに

日本舞踊門弟から話をうかがい、振り帳の使用方法や描画する際の要点、基本的な振りのパターンなどを学んだ。それに基づき、振り帳のIT援用について、基盤となるユーザインターフェース設計と機能の提案をし、実装後、評価を行った。

本研究での成果は、来年度に行われる、狂言の「小舞」に関する研究で引き継ぐ予定である。

本研究は科研費交付金「19300289」の補助を受けて行った。関係各位に深く感謝する。

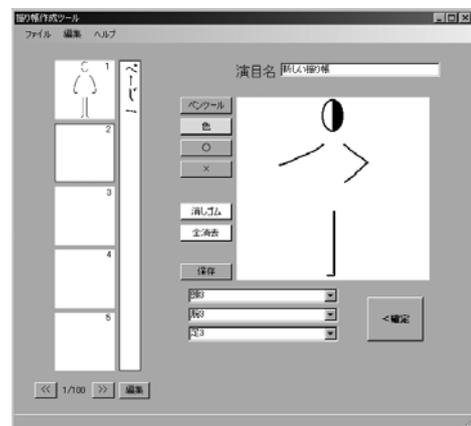


図1. 振り帳作成ツール

表1. 振り帳作成ツールの評価結果

対象者	演目名	曲時間	描画時間	
			手書き	振り帳作成ツール
山崎 誠也	松の縁	約5分	約300分	約220分
山崎 誠也	七福神	約8分	約600分	約550分
山崎 誠也	連獅子	約18分	約1200分	約1100分
山崎 誠也	供奴	約15分	約1000分	約900分
山崎 恵子	藤娘	約10分	約300分	約260分

## 参考文献

- [1]善竹十郎：“狂言の型と技”，形の文化誌[9] 芸道の形(2002.08).
- [2]善竹富太郎，大二郎十郎：“大蔵流狂言師善竹富太郎の狂言道場”，セルリアンタワー能楽堂(2007.08).
- [3]叶 一貴，叶 一誠ほか：“叶流舞踏会 連獅子ほか”，日本橋公会堂(2007.07).
- [4]花柳千代：“日本舞踊の基礎一実技”，東京書籍(1981.01).